

1996年に設立されたUbuWebは、自由にダウンロードできる何十万ものアバンギャルドな作品からなる海賊版シャドウ・ライブラリーです。著作権を公然と侵害し、ほとんど許可を得ていません。このサイトにあるほとんどのものは、他の場所から盗用、リップティング、スワイプしたものを再投稿しています。訴えられたことは一度もない。広告、ロゴ、募金箱などは一切ありません。助成金を申請したことも、スポンサーを受け入れたこともありません。私たちは、自由でクリーンな状態を保ち、やりたいことをやりたいようにやることができるように、喜んで無所属でいます。最も重要なことは、UbuWebはこれまでも、そしてこれからも、誰にでも無料で開放されているということです：メンバーシップやパスワードは必要ありません。サーバー・スペースと帯域幅は、知識への自由なアクセスを信じる、知的管理者の志を同じくするグループから寄付されています。グローバルな教育に重点を置いた豊かなギフト経済であるUbuWebには、すべての大陸から何万人もの人々が毎日訪れています。幼稚園児がパターン・ポエトリーを学ぶためのものから、大学院の学生がジャック・ラカンのセミナーを何時間も聴くためのものまで、数多くのシラバスに掲載されている。時々サイトがダウンすると、ほとんどのサイトがそうであるように、その週にどうやってコースを教えればいいのかとパニックに陥った教員からのメールが殺到します。

このサイトには、ジャン・デュビュッフェの音楽、ダン・グラハムの詩、ジャン・ミッシェル・バスキアのヒップホップ、マーティン・キッペンバーガーのパンクロック、ジョン・レノンの映画、ウルリケ・マインホフのラジオ劇、ハンネ・ダルボーベンの交響曲、ジュリアン・シュナーベルのカントリーミュージックなど、他の分野で有名な偉大な芸術家たちの残骸やはかないものが詰まっていますが、これらのほとんどはもともと小さな版で出版され、批判的に無視され、すぐに消えてしまいました。しかし、ウェブはこれらの作品を再構築するのに最適な場所です。ビデオ、サウンド、テキストは、絵画や彫刻よりもオリジナルの体験に忠実であり、『Ubu』は、認識された、誇張された、あるいは市場ベースの中心ではなく、芸術生産の周辺部に基づいた、異なる種類の修正主義的な芸術史を提案している。

UbuWebの大規模で境界の曖昧な前衛のアーカイブは、家父長制、覇権主義、帝国主義、植民地化、軍国化の遺産を背負った前衛という言葉が意味するものを必然的に変える。詩人で評論家のディック・ヒギンズは、このような懸念を表明し、「前衛という概念は、前衛部隊が本隊の前に出るという軍事的な比喻に関連しており、男性的なものである」と書いています。前衛演劇研究者のキンバリー・ジャンナロンも同意見です。前衛」という言葉は、軍隊から来たもので、第一次世界大戦の頃に初めて芸術に

適用されましたが、歴史的・政治的な批判の重みがあります。... 実際、歴史的な前衛は、しばしば性差別的、人種差別的、プリミティブ的、帝国主義的な概念に依拠していました」。イタリアの極右政党「カーサ・パウンド」がエズラ・パウンドの名を冠したポスターを制作したり、プーチン大統領の主な思想家であるウラジスラフ・スルコフは、前衛演劇の演出家だった頃の手法を用いて、右派の政治状況に混乱や不和、混沌をもたらすことに成功したとされています。前衛的なものを集めれば、前衛的なものにまつわるすべての間違っただけのものを再現してしまう危険性があります。それに対して、私たちは、前衛を濁し、汚し、遊び心を持って再構築する方法として、不純物を導入しました。モダニズムの厳格で硬いグリッドを、より流動的で有機的で不正確で予測不可能なものにねじり、歪めたのです。

しかし、コーネリアス・カーデュー、アミリ・バラカ、ムジカ・エレクトロニカ・ヴィーヴァ、ヘンリー・フリントなど、前衛的な実践の一環として、前衛の既成概念を覆した多くのアーティストや、前衛の概念を以前は規範から除外された方向に持っていった人々のことを考えてみてください。私たちのミッドセンチュリー・アヴァンギャルドのパンテオンとインスピレーションは、ムンドッグ、マリー・メンケン、ハリー・パーチ、ダフネ・オーラム、コンロン・ナンカロウ、アリス・B・トクラス、サン・ラーなどのアーティストで構成されています。アウトサイダーとビジョナリーに牽引されて、私たちのアバンギャルドは、奇抜さ、不純さ、革新的な形式的実験を楽しんでいます。一方で、ジェームズ・ジョイス、ウィリアム・カルロス・ウィリアムズ、パブロ・ピカソなど、古いタイプの作品も愛しています。そして何よりも、これらの作品が UbuWeb 上で一緒になった時が好きなのです。ヘンリー・ミラーとアナ・メンディエタ、カール・ハイムツ・シュトックハウゼンとヒト・シュタイレル、ファットボーイ・スリムとシチュアショニスト・インターナショナル、ウィーギーとキャリー・メイ・ウィームス、F.T.マリネッティとチン・T.ミンハが衝突したときに火花が飛び散り、それぞれが予測できない不安定な方法で隣人を刺激し、反映し、影を落とします。

このような考えを反映して、UbuWeb は意図的に不安定なライブラリ、矛盾したキュレーション、断片的、偏った、主観的、不完全なものを受け入れて組み立てられたアーカイブとなっています。

UbuWeb にはかなりの数のユーザーがいますが、彼らを監視しているわけではないので、どのようなユーザーなのかを正確に言うことはできません。たまにギャラリーでの展示や講演など、UbuWeb が物理的な空間に出現すると、何人かの人に会うことができます。一般的には、特定の層に偏ることはなく、このサイトの多彩な内容を反映して、ミュージシャン、詩人、学者、アーティスト、ダンサー、理論家など、さまざまな人たち

が集まってきます。私たちはこれまで、オンライン・コミュニティを促進するようなことはしてきませんでした。むしろ、公共の図書館のような静かなモデルを好んできた。もし UbuWeb のコミュニティがあるとすれば、それは影の図書館の仲間たちのレベルであり、文化的成果物や知的資料の自由な普及に尽力している世界中の個人や機関の志を同じくするサークルである。これらのリソースを利用する人々は、UbuWeb を利用する人々と重なります。

UbuWeb は、アバンギャルドのロビン・フッドと解釈できるが、ある人から奪って別の人に与えるのではなく、すべての人に与えているのだ。UbuWeb は、コンテンツをホストするのと同様に、自分で作成したディストリビューションとアーカイブ・システムの法的および社会的な影響についても重要である。ある意味では、コンテンツは自分で管理することができるが、それをサイトで維持することは、より困難な命題であることがわかっている。社会政治的に、無料のサーバースペースと無制限の帯域幅を維持することは、複雑なダンスのようなもので、著作権侵害に反則を求める人たちが投げたダーツをかわすこともしばしばです。

最近では、私たちのやり方を支持する声も多い。多くの人が UbuWeb をひとつの組織として考えています。有名・無名を問わず、多くのアーティストが「掲載してください」と連絡してくる。長い間、多くの人々が UbuWeb を軽蔑していた。UbuWeb は、アバンギャルドの世界における長年のヒエラルキーの崩壊を助長するのではないか、ある種の芸術形態を衰退させるのではないか、芸術を基盤とした経済全体を破壊するのではないかと恐れていたのだ。もちろん、そのようなことは起こりませんでした。私たちはたまたまウェブの始まりに居合わせ、次々と押し寄せる変化の波に乗らなければなりません。かつては毎日のように停止命令の手紙が届いていましたが、今ではほとんどありません。それは、私たちが何か変わったことをしているのではなく、ウェブの進化に伴って、人々の著作権や配信に対する考え方が変わってきたということです。

あなたがこれを読む頃には、UbuWeb はなくなっているかもしれません。インターネット・サービス・プロバイダー(ISP)がプラグを抜いたり、訴訟を起こされたり、あるいは単に飽きてしまったりと、様々な理由で Ubu は消えてしまうかもしれない。乞食は選ぶことができないので、提供されたものは喜んで受け取ります。安定したサーバーや高速なマシンで運営しているわけではないので、定期的にクラッシュしてアーカイブが失われたり、サイト全体が何日もダウンしたりすることもありますし、ただでさえ少ないボランティアが 1 人になってしまうこともよくあります。しかし、それがこのサイトの魅力でも

ある。UbuWeb は非常に反体制的で、非常に流動的です。特定の瞬間にたまたま感動したこと以外の要求に屈することはなく、柔軟性と自分自身さえも絶えず驚かせることができるのです。